

G20エネルギー移行大臣会合 高木政務官発言

- 議長そして西村大臣、有り難うございます。。日本政府を代表して、ロシアによるウクライナ侵略に対する最大限の非難とウクライナへの団結をまず明確にしたいと思います。
- 外務省から、エネルギー・アクセスについて発言します。
- 本会合において、エネルギー・アクセスを主要なテーマとして取り上げることは重要です。日本は、廉価なエネルギーへのアクセスは人々の生活の基盤をなすもの(ベーシック・ヒューマン・ニーズ)であると考えています。
- 世界の現実として、
 - (1)約7億人が今なお電気へのアクセスがない状況です。
 - (2)約24億人が電気・ガス等の近代的なエネルギーを利用できないために、薪等の原始的なバイオ燃料を用いて食事を作っています。
- ロシアのウクライナ侵略によるエネルギー危機が脆弱層の生活を圧迫している現実を考慮すれば、エネルギー移行に際して、廉価なエネルギーへのアクセスをしっかりと確保していくことが重要です。
- こうした認識に立って、日本が議長を務めたG7広島サミットではエネルギー安全保障、気候危機及び地政学的リスクを一体的に捉え、各国の事情に応じた多様な道筋の下で、ネット・ゼロという共通目標を目指す必要性について認識を共有することができました。これは大変有意義であったと考えています。
- この議論も踏まえ、エネルギー移行期におけるエネルギー・アクセスの在り方について、引き続き G20 でも連携していきたいと考えています。

(了)